



【教育目標】

- ・ 自ら学習する生徒
- ・ 正しく判断できる生徒
- ・ 健やかな生徒

発行者 校長 高橋知宏

相手の立場になって物事を考える

（平成30年度第1学期終業式式辞 抜粋）

今日で72日間の1学期が終わりますが、この1学期間で、1年生は、たくましい中学生らしさが出てきました。2年生は、1年生の良き手本として、また3年生を支える中堅学年として立派に成長しました。3年生は、行事や部活動など様々な場面で最高学年としてリーダーシップを発揮し、素晴らしい活躍をしました。

さて、今学期は、いじめのない学校にしていくために、学校全体で「人権」について考えてきました。その手掛かりとして、各学級で、「居心地の良いクラス」について考えたり、アサーショントレーニングやソーシャルスキルトレーニングにも取り組みました。

そこで、今日は、1学期を振り返る意味でも、「相手の立場に立って物事を考えること」の大切さについてあらためて話したいと思います。相手の立場に立って考えるとは、「自分はこう考えるけれど、相手はどう受け止めるかな?」「自分はよいと思っているけれど相手は嫌がっていないかな?」…などを予測しながら行動することです。皆さんは、友達と会話をしたり活動したりするとき、相手の「都合」や「好き嫌い」を考えたり、自分の言葉や行動が相手を傷つけていないかどうかを考えたりしていますか?

相手への配慮が必要な場面は、何も特別な場合だけではなく、何気ない会話や活動の中にもたくさんあります。例えば、友達に「この問題どうやって解くの?」と聞いた時、「分かるわけじゃないじゃない。私に聞かないでよ!」とか、「なぜ、そんな問題も解けないの?」と言われるたら、カチンときませんか?でも、「自分もよく分からないから、一緒に先生に聞きに行こうか?」とか「なんとか自分は分かったけど、ここところが難しかったよ。」と言ってくればほっとすると思います。このように、普段の会話の中でも、相手の気持ちを大切にしなければならない場面はたくさんあります。皆さんには、相手の立場を考えた言動ができるようになってほしいと思います。そのためには、まず、「自分が人にされて嫌なことは絶対に人にはしない」ということを常に心がけて生活して欲しいと思います。

明日からは夏休みに入ります。自分が決めた目標に向けて計画的な生活を送ってください。二学期のスタートの時に「充実した夏休みだった。」と胸を張れるよう、無事故で有意義に過ごしてください。

※現在、学校で実施している「道徳の時間」は、来年度より「特別の教科 道徳」となり、教科書を使った道徳科としての授業が始まります。それに伴い、学校の道徳教育について積極的に公表したり、家庭や地域の皆様の積極的な参加や協力を得たりすることも求められています。本校も様々な機会をとらえて情報の発信に努めてまいります。

吹奏楽部ゴールド金賞!

7月25日（日）、第56回福島県吹奏楽コンクール第36回相双支部大会が南相馬市文化会館「ゆめはっと」で開催されました。本校吹奏楽部は、中学校小編成の部に出場し、悲願のゴールド金賞を受賞しました。惜しくも県大会出場は逃しましたが、ホール全体を包み込んだ躍動感のある色彩感豊かな石神中サウンドは、多くの聴衆を魅了しました。たくさんの応援ありがとうございました。



「斐伊川に流るクシナダ姫の涙」を演奏する吹奏楽部